

第13回辰野千壽教育賞 講評

■優秀賞お1人目の赤松 弘一氏のテーマは、『身近な自然に対する探究心を育むための実践～理科通信をきっかけに～』というものです。

赤松さんは、理科を楽しみ、主体的に学ぶ意欲を持って取り組む生徒を育てるためには、身の回りの自然に生徒たちの目を向けさせ、命の営みや、生き物同士がつながりあう自然の仕組みに気づかせることが大切だとの考えのもとに、長年、理科通信の発行に取り組んで来られました。

通信で取り上げられた題材はすべてご自身が実際に体験されたり、生徒が持ち込んできた身近な事物であり、そのユニークな切り口からの解説とユーモアあふれる文章、そして毎号添えられているきわめて精密な点描画は、ご自身の自然に対する好奇心と愛情に満ちており、そのいずれもが、読者を惹きつけ、生徒たちの自然への好奇心・探究心を刺激し続けてきたであろうことが容易にうかがわれる、すぐれた実践と評価されました。

また、こうした取り組みを28年間という長きに渡り一貫した姿勢で続けて来られ、通算340号もの理科通信を発行された、その実践性や継続性においても高く評価され、優秀賞に相応しいと判断されました。

■優秀賞お2人目の松村 謙一氏のテーマは、『個の育成をめざす中学校社会科経済学習の授業研究—同時性解消と社会的連帯の経済概念に着目して—』というものです。

松村さんは、経済学習の単元開発と実践を通して、社会科授業による生徒の社会認識の形成と、個々人の公民的資質、すなわち実社会における実践力・行動力の育成過程の分析に取り組まれています。

宅配便の再配達問題という、時宜に合った社会問題を取り上げ、社会生活の変化や経済的損失の影響など、多様な関連要因についての認識を高めていく中で、解決策を考え、その学びを社会に向けて発信するという授業実践が行われました。そこでは、生徒の実態から析出された「社会的連帯」という考え方を中心に据え、生徒が消費者の一人として責任を感じながら、問題解決に取り組む姿勢の醸成が図られました。

先行研究から課題を丹念に整理し、また客観的資料に基づいて生徒の状況を緻密に分析し、その結果を即時に授業に反映させながら展開していった本研究は、授業研究としての精度・完成度がきわめて高く、またその手法は、多方面への応用が期待できることから、

その先進性・独創性が高く評価され、優秀賞に相応しいと判断されました。

■奨励賞の内野 裕太氏のテーマは、『よりよい人間関係を築き、児童一人一人の自己有用感・自己肯定感を高め、本音で磨き合える学級集団の育成～『特別活動』における学級活動(1)・(2)・(3)を中核とした授業実践を通して～』というものです。

内野さんは、学級集団における人間関係に着目し、児童一人ひとりの自己有用感・自己肯定感を高め合うような学級活動を構築し、またそのことを通して児童の学級への所属意識や参加意欲を高める実践に取り組まれています。

特に、学級活動の実践に当たって、用具や掲示物の用意、自治的に取り組ませるための事前指導など、細やかな配慮と工夫を凝らして話し合いの活性化を促している点、また話し合いの場を教科学習にも広げ、一貫した意図と姿勢で話し合い活動を高めていこうとしている点など、多様な機会をとらえて精力的に学級集団づくりに取り組まれている様子が見えてくる実践でした。今後、これらの活動を体系化・構造化し、より大きな研究としてまとめられることで、実践面での応用可能性もさらに広がっていくものと期待されます。

このような本実践の将来性や発展性が評価され、今後のさらなる取り組みに期待して、奨励賞に相応しいと判断されました。

以上、簡単にご紹介いたしました。この辰野千壽教育賞受賞を機会に、受賞者の皆さんが、これまで身に付けてこられた実践力を発揮され、教育現場のリーダーとして、ますます活躍されることを願っております。

辰野千壽教育賞選考会議議長